

■実現しました

「登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区まちづくりビジョン」の策定へ

「登戸土地区画整理事業の最終形がわからない。どんな街になるのか絵を描いてほしい。」とのお声から質問。「登戸2号線（道路）の沿線は商業集積地であり、絵を描くことは地権者にとっても有益」と指摘し（令和2年6月議会質問）、このほどビジョン策定・公表となりました。

同様の手法で「区役所通り登栄会商店街まちづくり方針」も策定されています。詳しくはホームページ、もしくは登戸区画整理事務所までお問合せください。



登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区まちづくりビジョン



区役所通り登栄会商店街まちづくり方針

命を守る講座PART2「水害から命を守る」を動画で配信！

ゲスト：飯塚豊さん 川崎市危機管理監
鈴木光さん 「my減災マップ」の考案者・減災ラボ

多摩区の災害特性は平野部の水害（洪水・内水氾濫）と丘陵部の土砂災害に二分されます。例えば生田の山はお水山と呼ばれており多摩区の丘陵は含水率が高いことがうかがわれます。堰・宿河原・中野島・稲田堤などは川由来の地名。名は体を表すごとく地名や昔からの呼称はリスクも教えてくれます。またコロナ蔓延下では避難所への集中を避ける分散避難が求められます。このような解説も含め、川崎市・多摩区の防災・減災を学び、より良く難を避けて頂くために動画を作成・配信いたしました。

①ハザードマップ編②my減災マップ編③安全な避難編の3部作です。是非、YouTube「あっこチャンネル」からご覧ください。

※my減災マップとは？紙やシールを使い一人一人が手作りで「重ねるハザードマップ」を体感できる優れものです。3月議会で取り上げ、推進することに。学校・自治会などでワークショップを開催、子どもから大人まで楽しく減災を学んでいます。ご興味のある方は吉沢事務所までご連絡ください。



あっこチャンネルはこちら

多摩病院の全館Wi-Fiが実現します！

令和2年12月議会で質問した、コロナで面会できないなど必要性の高まる病院のWi-Fi完備について、・多摩病院が全館整備を決定！11月中の完成に向けて現在工事中です。川崎病院は10月中に産科病棟の工事終了、井田病院も病棟7階の工事終了。市立3病院すべての全館Wi-Fiの実現に取り組みます！

活動報告

絵本「きぼうのとり」を橋渡し。小学校114校にご寄贈頂きました。

福島民報社さんが福島の複合災害を忘れず、防災・減災教育に役立てて欲しいと作成された絵本「きぼうのとり」。リアルで深く、希望あふれる作品です。吉沢の妹・笹久保孝子がきぼうのとり絵本サポートプロジェクト・副代表を務めるご縁から川崎市とお繋ぎし、全ての市立小学校114校分の絵本をご寄贈頂くこととなりました。心より感謝申し上げます。川崎の空に沢山のきぼうのとりが舞うことを願っています。



絵本 きぼうのとり



令和3年7月21日 寄贈式



2021 Vol.22 eco aiko

吉沢章子通信

<http://yoshizawa-akiko.jp> 川崎市議会議員 一級建築士

無所属

ごあいさつ

皆様こんにちは。吉沢章子です。コロナも災害級・自然災害も予断を許さない昨今ですが、お元気でいらっしゃいますか。以前は「災害は忘れたころにやってくる」と言われておりましたが、今は「災害は常に身近にある」時代となってしまいました。6月から10月は出水期・水害への備えが肝心の季節です。最適な備え・避難を再考して頂く一助として川崎市危機管理監・飯塚豊さん、減災ラボ・鈴木光さんをゲストに「命を守る講座PART2・水害編」を動画で作成いたしました。

ハザードマップ編・my減災マップ編・安全な避難編の3部作をYouTube「あっこチャンネル」で配信しておりますので是非ご参考にして下さい。（くわしくは本誌裏面に掲載しています）

厳しい時代だからこそ、現実から目を逸らさずに希望を持って取り組むとともに、是々非々を貫き、正すべきは正してまいります。今号は6月議会報告、多摩区の政策などを掲載しております。ご一読頂けましたら幸いです。またご意見・ご感想、ご相談やお困りのことがございましたらご遠慮なく吉沢事務所までご連絡ください。気の抜けない日々が続きますが、皆さまと一緒に手を携えて乗り越えてまいりましょう。



川崎市の防災、気象の情報

防災無線で知る

SNSやインターネットで知る

◎川崎市防災ポータルサイト

URL: <https://portal.kikikanri.city.kawasaki.jp/>

◎アプリ かわさき防災アプリ

◎メール メールニュースかわさき「防災気象情報」（登録が必要です）

◎Twitter @kawasaki_bousai

TELで知る

防災テレホンサービス（防災無線で放送された内容）

- 神奈川県内に設置された加入電話・公衆電話（一部接続できない電話があります。） 0120-910-174（無料）
- 携帯電話、PHS、神奈川県外の加入電話・公衆電話、(1)の番号に接続できない電話 044-245-8870（通常の通話料金がかかります。）
電話受付時間 24時間、365日

日頃からの備え

◎川崎市防災ポータルサイト Web版「備える。かわさき」

URL: <https://portal.kikikanri.city.kawasaki.jp/static/sonaeru/>

◎ガイドマップかわさき「防災マップ」

(PC版) <http://kawasaki.geocloud.jp/webgis/?mp=131>

(スマホ版) <https://kawasaki.geocloud.jp/webgis/s>

ハザードマップや避難所の場所を確認できます。

要望により川崎市のサイトがリニューアルしました



普段からご活用いただき、職場やご家庭で話し合いをして、日頃から備えておきましょう



吉沢章子プロフィール

- S39年 3月14日多摩区に生まれる
- S59年 菊竹清訓建築設計事務所 勤務
- H08年 吉沢章子建築設計事務所 開所
- H15年 川崎市議会議員 初当選
- H29年 川崎市市長選挙 出馬
- R01年 川崎市議会議員 5期目当選
- 趣味 サッカー ドライブ 絵を画く 詩を描く 歌を詠む

吉沢章子事務所

214 - 0014
川崎市多摩区登戸1531 エスポワール II 103
TEL 044-933-8018 FAX 044-933-8032



6月議会報告

災害時の広報が伝わらない、ワクチン予約がパンク、ホームページが分かりにくい

川崎市の広報、ちゃんとしよう！ ということで徹底調査からの提案！

1. 川崎市の広報について

1-1 危機事象下の広報について

Q：災害時の市民への広報がわかりにくく改善すべきと指摘。令和元年東日本台風の反省から改善されたものは？

A**危機管理監**：雨雲レーダー、大雨警報危険度分布などの気象情報や河川カメラなどの情報をハザードマップ上に重ねて表示できるようにした。情報発信を改善（表紙の特集記事をご覧ください！）

→ 長年要望してきた「**重なるハザードマップ**」とともに、**情報の可視化、迅速性が実現されている**。反省点が活かされた好例。

Q：コロナ対策において、**ワクチン接種予約でパンク・刻々と変わる情報が的確に届かず市民の混乱を招いた**。第1波の時点で、次に備えよと指摘したが活かされたのか？現時点での総括と今後の改善は？

A**健康福祉局長**：コールセンターではオペレーターの増員、受付時間の延長、フリーダイヤル化などの改善。広報は市政日より、ホームページ、SNS、動画などにより積極的に情報提供。今後も受け手を意識しわかりやすい発信に努める。

→ **第1波における反省は活かし切れず、準備不足を指摘せざるを得ない**。予測は常に厳しく見るべき。猛省し修正を。

1-2 広報戦略の転機について

Q：「**伝えたい人に届く広報**」が実現されていない。吉沢の調査では、市民の声が十分に活かされていない。

↓**吉沢の提案**

①過去の経験・反省・データを活かす仕組みづくり

②過去の資産を活かしつつ、市民からの声を拾う仕組みづくり

③フロー型（迅速性）・ストック型（正確性）・個別対応（検索しやすさ・わかりやすさ）を万遍なく行う広報戦略への転換が必須

見解は？

A**総務企画局長**：様々なツールを駆使し、貴重な意見を活かすことが必要。仕組みづくりと職員の研修を強化し、全庁的な底上げを図る。

→ **課題認識がまだまだ甘い**。以下を要望。

①広報の肝は「早く・正確にわかりやすく」②広報戦略の市のコンセプトを明快に。③多世代・多様な市民から広く意見を。ワークショップの開催。④**断捨離するには先に、全てを詳らかに**。12月議会までに各局・区の苦情・意見情報を集約して分析を。

Q：ホームページのサーバー（インターネット配信用コンピューター）のリース（委託金額：年間3千万円以上）が2年後に契約終了。それまでに効果測定・市民意見の集約・広報におけるビジョンを示し、相応しい事業者を選択すべき。見解は？

A**総務企画局長**：利用状況や改善点を把握するための市民意見収集を行う。より使いやすく、市のデジタル広報の中核となるよう設計する。

委託天国？！莫大な委託費の見直しを！

足元を見られている行政。徹底した検証と再発防止の提案

2. コンサルタント・委託業者の質について

事業名 (担当局)	業者名 業種	委託金額 (千円)	問題	損害の考え方	ペナルティ	追加の委託金額 (千円)
市立川崎病院医療機能再編整備基本計画策定支援業務委託(病院局)	市立川崎病院医療機能再編整備基本計画策定支援業務委託(病院局)	19,980 平成29年度	建築基準法・条例等に対する認識不足が発覚。当初予定の形状にはならなかった。	確認不足が認められるも、契約違反にまでは該当しない。	なし	3,880 平成30年度
川崎じもと応援券発行運営業務委託＝第1弾＝(経済労働局)	株)JTBJ川崎支店 旅行業他 45事業	359,335	1次販売で完売せず、2次・3次と延長→追加委託を2回(予備費・流用にて支出)	—	なし	82,803
五反田川放水路分支部詳細設計委託(経済労働局)	日本工営(株) 建設コンサルタント	78,540	構造計算ミスにより、コンクリートにひび割れが生じた。	対策に要する費用が損害。請求する。	検討中 指名停止??	—

Q：表の3件はいずれも「期間内に、予算内で、目的を達成」がされていない。規約では「契約を履行しなかった場合、履行完了が遅延した場合のペナルティとして損害金の支払いや指名停止措置に該当する可能性あり」とされている。契約不履行では？該当事例ではないか？

A**財政局長**：契約不履行の判断は、事業を所管する部署において行うべきものと考える。

Q：令和2年6月議会で「じもと応援券が期間内に販売完了しなかった場合、**追加費用は当然生じないはず**」と質したのに対し「**協議する**」と答弁。結果は販売完了できず2次・3次販売。さらに誰も望まない販売期間の延長などで**8千万円もの追加金**が生じ、当初3億6千万円の契約金が**4億4,200万円に膨れ上がった**。どんな協議をしたのか？

A**経済労働局長**：延長、再延長についてその都度協議を行っている。その協議において経費等を精査した結果、8,280万円の追加となった。

→商店街の声は「**委託に払うなら商店街に1円でも現金を**」。事務委託費の合計約9億円を市内店舗数6768で割り戻すと約13万2千円。事業の徹底した効果検証を！登録店舗や市内店舗にアンケートを行い報告書の作成を。追加費用は当然なし。

Q：病院局・経済労働局はペナルティどころか、追加契約による予算支出の上に、委託業者のミスによって市の職員が下請けのように動いている。本末転倒も甚だしい。

職員の時間も含めて税金の無駄使い。委託事業における効果測定とペナルティ運用の徹底、再発防止策は必須だが？

A**総務企画局長**：課題が生じた場合、①事業執行部署で課題を抱え込まず、関係部署と連携し全庁的に対応してゆく。②不完全な業務の履行や履行遅延などを財務事務に潜むリスクとして認識し、③予防的な対策を講じてゆく。

→**大事な①②③、確実な実行を**。コンサルタント・委託業者への審美眼を養うこと！

※じもと応援券の事務費は、第1弾合計・4億5,000万円、第2弾・5億2,000万円(吉沢は予算の組替えを発議して反対)、第2弾期間延長による追加・約3,000万円(吉沢は在庫処分?のための延長に納得できず反対)、9月現在でとうとう総合計10億円。全額JTBに支払われます。皆さまはどう思われますでしょうか？

パワハラの手がかりが多方面から。黙ってはいられません

3. ハラスメント等について

	ハラスメント相談件数	メンタルヘルス長期療養者数	退職者数(転職者数・割合)
平成30年度	34件	226人	791人(154人・19.47%)
令和元年度	32件	263人	787人(161人・207%)
令和2年度	38件	298人	

表2・市職員におけるハラスメントなどの過去3年間の推移

Q：ハラスメント情報が多数届く。相談件数よりもはるかに多い体感。メンタルヘルス長期療養者は過去3年間で増加、特に20代が増。職員のモチベーションの低下は市民サービスの低下、メンタルヘルスの低下は命に直結し、到底看過できない。現状への率直な見解は？ハラスメントへの懲戒処分は制定されて以来1件のみ。抑止力として運用強化が必要では？

A**総務企画局長**：ハラスメントは個人の尊厳を不当に傷つけるもの。昨年の法改正時に**パワハラへの懲戒処分規定を明記**。迅速・適切に対処する。

Q：**気軽に相談できる風土の醸成が必須**。機能不全といわれる職員通報制度や若年者向け相談の見直し、改善点を含めた匿名アンケートの実施を行うべきでは？

A**総務企画局長**：電話・メール相談は匿名で可。複数の窓口の活用を促し、より一層職員が相談しやすい組織風土の醸成に努める。

→ **転職者が退職者の20%を占める**。人材流出の歯止めにも、職場風土の改善は必須。まずは現状の効果測定を！

※**社会福祉協議会におけるハラスメントについても指摘し、改善を求めました**。

多摩川のゴミから見えたもの。市民の環境活動応援・環境と命を守る教育の提案！

ごみ拾いボランティアの方からのご相談をいただき多摩区中野島の河川敷へ



4・多摩川の環境改善などについて

Q：東日本台風による倒木も散見。撤去は河道掘削と同時にとのこと。流域治水・河道掘削における**多摩川の環境配慮と治水対策のスケジュール**について国の見解は？

A**建設緑政局長**：水際の環境に十分配慮して対策を行う。必要に応じ学識経験者や**多摩川で活動する団体等への意見を聴取し**、関係自治体と連携して治水対策を進める。これらを含む「多摩川緊急治水対策プロジェクト」は令和6年までに実施する。(国交省)

Q：ボランティアの方は逆に不法投棄者と間違われ、稲田多摩川公園・管理組合の方は定期的に清掃しゴミを自宅に持ち帰っている。多摩川のみならず率先してゴミを拾う市民は多数存在する。例えば**市のお墨付き「バイオマスゴミ袋**」で、ゴミを拾う市民の善意に寄り添い環境活動に寄与しては？

A**環境局長**：市民・事業者の自主的な清掃・美化活動は大変重要。事前に連絡をもらえば**市で回収している(令和2年度は2000件)**。ゴミ袋は国などが推進する「**海ゴミゼロウィーク**」が提供する**バイオマスゴミ袋の入手方法についてご要望に応じ情報提供**を行う。

Q：川崎の川を知ることができる環境局の「水辺の親しみやすさ調査」冊子は秀逸。子どもたちの環境教育・減災教育・郷土愛の醸成につながる。教育委員会での展開と同時に多摩川に親しむ体験型学習の機会を増やすことを提案するが？

A**教育長**：身近な存在である**多摩川の学習は魅力とともに洪水時の危険から命を守ることを実感的に学ぶ上で意義深い**。体験的な学習活動を推進し提案の「**水辺の親しみやすさ調査**」も活用し**環境教育を充実**させる。

→川を学ぶことは**自然の恵みと怖さを知り、生き物の命と自分の命を守る**こと。より一層の連携・充実を。

